

タブレット端末の活用

令和3年4月に1人1台のタブレット端末の貸し出しが始まり、欠席の児童で希望者はオンラインでの授業配信も行いました。学習方法の幅が広がり、児童の学習意欲が向上しました。また、丁寧な扱い方や使用上のルールも学びました。朝学習の時間、タブレット端末にある「学びポケット」や「MIM デジタル版」のアプリケーションを使ってドリルに取り組む姿がありました。また、生活科「秋探し」の授業で宿題が出され、子どもたちは、早速タブレット端末を家に持ち帰り、さつまいも、ぶどうなどの季節の食べ物や近所の公園で紅葉の様子などを撮影してきました。それぞれが写したものを電子黒板に映して、授業が進められ、大変興味や関心をもつことができました。

教室にある収納庫の様子



家で使用することもあり充電も忘れません。

リモートでの全校朝会の様子



各学級の電子黒板で、児童は校長先生の話聞いていました。

授業でタブレット端末を使っている様子



生活科の授業で、朝顔の生長過程を撮りファイルにまとめました。

一年の成果

楽しい
学校生活



進んで
行う姿



☆こんな配慮や手助けをしました☆

コロナ禍2年目の支援活動は、手洗い、うがい、マスク、黙食、人との距離など考えながらの生活で、子どもだけでなく支援する側も不安の中で「新しい生活」が動き出しました。私たちは、「子どもが自ら進んで学校生活を送れる」ように支援を行いました。入学当初、玄関先で上履きが無いと泣いていた子どもの対応、雨天では、傘の始末の声掛け、検温カード記入を忘れた子どもを、保健室に連れて行くことなどがありました。授業中に、「トイレに行きたい」や「えんぴつが見付からない」「ノートを忘れた」ことを話せないでいる場面がありました。子どもが、担任や友達とのやり取りに気後れする姿を見て、「それでも言わなければ、相手に伝わらないよ」と語りかけました。さりげなく接する中で子どもの「困り感」に寄り添い、安心して自信をもって行動できるように応援しました。「言えた!」「できたよ!」と話す姿は、とても嬉しいことでした。

☆子どもたちの成長☆

入学当初、子どもはクラス全体の指示が自分のことと思えずに、話を聞いていないことがありました。また学習や課題に集中している中、チャイムが鳴り終了が告げられても、なかなか切り替えられずに続けている場面もありました。自分でやることに見通しをもって取り組むのは、とても難しいのです。担任の先生からは、「一人で見るのと違い、気付きの目があることがとても助けになりました」「子どもたちを見守ってくれる中で、私自身にも気付きがあり、子どもの姿を捉えることができました」という感想をいただいています。3学期になると、話し合い、係活動や行事を通して、子どもが仲間たちに揉まれながら成長していき、自立していこうとする姿を見ることができました。担任の先生と同じ考えで子どもに歩み寄る“連携”はとても大切だと感じ、今後コロナ禍が治まり、保幼小の連携の活動ができることを期待したいと思います。